

令和3年7月16日(金)

校長 多々納 雄二

全国大会等出場にかかる壮行式 激励の言葉

・『全国』で見える景色は違う(特別だ)」

これは紛れもない事実です。私自身、はるか40年以上前の高3の冬、様々な運も味方してラグビーの花園の舞台に身を置いたとき、強烈な刺激を受けたことを今でも鮮明に覚えています。体格、スピード、迫力、何もかもが異次元の世界、さらに挨拶や振る舞い、礼儀正しさ、それらからもたらされる毅然としたオーラ、雰囲気。これが全国なんだ、強さなんだ、初めて経験する異質なものを感じ取り、「井の中の蛙」であり続けてはだめだと、自分を鼓舞する、次の一步の糧になった貴重な経験だったことを思い出します。

・これから全国の舞台に立つ皆さん、心からおめでとうと言いたい。この権利を得るのにはきっと容易に想像できない苦労もあったことでしょう。勝者がいれば必ず敗者がいる、権利を得た者がいれば得られなくて悔しい思いをした者がいる。皆さんは、出雲高校の代表であるとともに、島根県の代表としての誇りと自信をもって、あの全国の舞台で、堂々と最高のプレーやパフォーマンスをしてきてください。そして、皆さんにしか得られない貴重な体験を持ち帰り、出雲高校や島根県のさらなる飛躍につなげてくれることを期待しています。

・野球部、吹奏楽部の皆さんは、全国への切符をつかみ取る挑戦の機会が待っています。おそらく高い壁が待ち受けていますが、何よりも自分たちのやってきたこと、身につけた力や仲間への信頼を忘れずに、全力を尽くしてくれることをお願いしたいと思います。「念ずれば花開く」との言葉があります。「念ず」には、祈るだけではなく、我慢するの意味があります。浮き足だったり動揺したりする時にはしっかりと我慢し、自分と仲間を信じ、やり抜いて、花が開くのを祈りましょう。悔いなき全カプレー、全カパフォーマンスを期待しています。

・結びに、皆さんにお願いを二つしておきます。

・一つは、久徴の伝統精神「至誠」を貫くこと。誠心誠意、全身全霊を懸けて、その一瞬に向き合ってください。相手のある場合には、なおさら至誠を忘れずに。

・二つ目は、GRITizmノートで学んでいる、「GRIT＝やり抜く」こと。どんなときでも悔いは生じません。ただ、「あの時こうしておけばよかった」といった、やらないことへの悔い、やり抜かずに終えてしまったことへの悔いはいらない。一人一人に許された自己表現の瞬間、瞬間に誠実に、できることをしっかりとやり抜く。できないことはできないのが当然。できることを最大限やり抜いてください。奇跡と呼ばれるモノは、誠実な取組の先にもたらされるものです。

・全校生徒、全教職員で皆さんを応援しています。

以上、晴れやかな笑顔での再会を祈念し、激励の言葉とします。